

# 「研究と創造の精神」と「モノづくり」 赤れんが便り

Information of Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology

特集 「温源知新」豊田佐吉生誕150周年記念

Vol. 76



豊田佐吉が欧米視察時に乗船した因幡丸

日本郵船歴史博物館所蔵



トヨタ産業技術記念館



豊田佐吉生誕  
150周年  
記念特集

# 新 知 源 温



研究と創造の生涯 ～佐吉の志と、それを支えた人々～

＊ 第2回 ＊

## 「雄飛の翼」

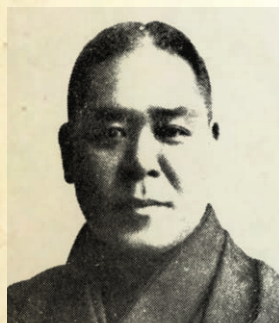
動力織機を発明した佐吉は、1899年三井物産から共同事業を持ちかけられ、井桁商会の技師長に就任。

しかし、発明と営利の矛盾からわずか2年足らずで井桁商会を去りました。

再出発を果たした佐吉の豊田商会は、その後、順調に発展していきます。

そんな佐吉のもとへ再び三井物産から誘いが。果たして佐吉の決断やいかに…

## 発明と営利の両立の壁を再度経験



藤野 亀之助

豊田商会時代の佐吉は発明に専念し、新しい動力織機を次々に世に送り出し、織布工場も繁忙を極めていました。そんな折、再び三井物産から話が持ちかけられます。佐吉のもとを訪れたのは、またしても佐吉の才能を高く評価していた藤野亀之助でした。藤野は佐吉に株式会社組織に改組することを勧めます。井桁商会での失敗もあり最初は固辞し随分悩みましたが、当時、繊維産業は国を支える基幹産業であり、国家的事業と説く藤野の熱意に「国のためになるなら」と受諾。1906(明治39)年12月、豊田式織機株式会社\*(以下、豊田式織機(株))を設立。東京、大阪、名古屋の資本家から資金を調達し、資本金100万円という、当時としては珍しい国家事業規模の大会社が誕生。豊田商会の工場・従業員も引き継ぎ操業を開始し、佐吉は常務取締役・技師長に就任しました。

豊田式織機(株)は、当初、「たて糸切断自働停止装置」などを装着した「三十九年式織機」や低廉な「<sup>けいべん</sup>軽便織機」など好調に推移していたものの、日露戦争後の反動不況で業績が振るわない状況が続きます。それでもなお、発明のための試験を重ねたい佐吉は、私費を投じて試験工場

※豊田式織機株式会社  
現在は豊和工業株式会社として  
工作機械の製造販売を中心に  
事業展開しています。





1906年発売の三十九年式織機



1907年創立の豊田式織機(株)



豊田佐助

(後の豊田織布菊井工場)を設立し、次弟・佐助に任せたことで、経営陣との間に溝が生じました。やがて発明を優先させたい佐吉と営利をめざす経営陣との対立が決定的となり、1910(明治43)年4月、豊田式織機(株)の緊急重役会でついに決裂、佐吉は辞表を提出します。三井物産発案の提携は、2回目も失敗に終わりました。

## 欧米視察の成果

土地、建物、機械だけでなく、自身の発明の特許権まで、自らがこれまで築き上げてきたほとんどを失った佐吉。まさに奈落の底に突き落とされ茫然自失の中、1910



佐吉の欧米視察ルート

(明治43)年5月、西川秋次<sup>あきじ</sup>を連れ米国へ旅立ちます。西川は佐吉の妻・浅子の遠縁にあたり、佐吉の生き方に感銘を受けていました。佐吉の勧めにより教師を辞め東京高等工業学校(現・東京工業大学)紡織科に入り直し、卒業後は佐吉のもとに帰ってきました。

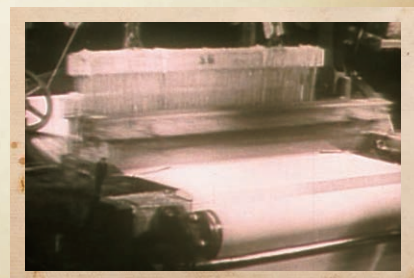
失意の佐吉を欧米視察へと導いたのは、一縷の望みを米国に託し、まだ道半ばの自動織機の発明を完成させたいという熱い思いでした。そこには、日本の資本家に対する強い反抗心、そして、自らの織機と海外の織機を比較研究したいという思いもありました。佐吉のために、欧米での世話を三井物産欧米各支店に依頼したのは藤野でした。不幸にも会社を去ることになってしまった佐吉を陰ながら応援していたのです。藤野の援助もあり現地視察もスムーズに進行。米国の工場では、織機の試験設備は非常



欧米視察時の佐吉(43才)

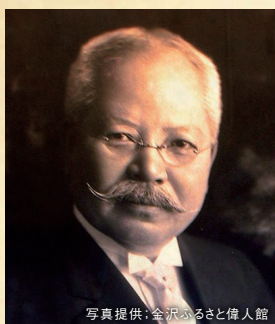


アメリカの紡績工場



アメリカの織機



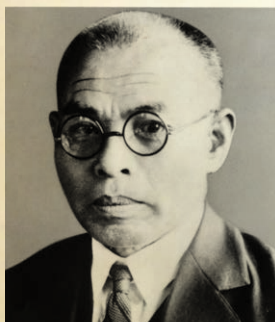


高峰讓吉

※高峰讓吉(1854-1922)  
タカジアスターゼの創製やアドレナリンの結晶抽出などの業績で知られる世界的な化学者。アメリカに永住して研究を続けました。また、ワシントンD. C. の桜並木の植樹を企画し、資金提供するなど民間外交にも尽力しました。



1912年完成の豊田自働織布工場



鈴木利蔵

に充実していて羨ましく思うものの、機構が複雑で回転数が低く振動が多い、たて糸切れも多く風合いも良くないなど、多くの弱点に気がつきます。自分の織機が劣らないことを知った佐吉は、実現しつつあった自動織機の発明が、世界的価値を有することを確認して、「日本に帰って、もう一度自動織機の発明にかけてみよう。世界一の自動織機を発明してみせる」と自らを鼓舞。心機一転、佐吉の心に一筋の光が差し込みます。

「国恩は大事たり、自己の恥辱は小事たり」

佐吉は決意を固めます。

旅の途中では、世界的化学者として名声を博していたニューヨーク在住の高峰讓吉博士\*を訪問します。博士は「発明家たるものは、その発明が実用化されて社会的に有用な成果が得られるまでは決して発明品から離れてはいけない。それが発明家の責任である」と佐吉を励ました。高峰博士は日米の経済、文化交流にも努めた人物で、博士から民間外交の大切さも学びました。佐吉はその後ヨーロッパも視察して、1911(明治44)年1月、帰国しました。

## 自動織機完成のため 豊田紡織株式会社を創設

「他力主義のため、再三体験せし失敗に鑑み、今回こそ不拔の大覚悟をもって人に頼らず、自力主義を本尊とし、発明に着手するに至れり」

世界に目を開き自信を取り戻した佐吉は、豊田式織機(株)との決別の意味を自立への開眼と悟り、「完全なる自動織機」の完成をめざす試験工場建設の準備に取りかかります。苦心の末、資金調達を行い、1911(明治44)年10月、愛知郡榮生字米田(トヨタ産業技術記念館の現在地)に土地3,000坪を入手。1912(大正元)年11月、豊田自働織布工場が完成し、織機100台でスタートします。翌1913(大正2)年には100台増設し、200台体制とします。この頃、自動織機開発のために佐吉の片腕となって取り組んだのが鈴木利蔵<sup>りぞう</sup>と岡部岩太郎です。二人は佐吉のアイディアの図面化や試作品の制作などに尽力しました。開発を進める中、新しい問題に遭遇します。買入れた糸では品質が悪く、織機改良のための十分な試験が行えないことが



判明したのです。良質な原糸を製造して、自給自足を図るべく佐吉は紡績工場を増設する一大決心をします。

「自動織機発明完成の目的にて紡績工場を経営し、万一失敗に終わって自分の財産を無にしてもいささかも悔いるところなし」

と、半ば強引に紡績工場を増設し、1914(大正3)年2月、豊田自動紡織工場に改組します。自動織機の完成のために、財産を失う危険を冒してまで紡績工場を造ることは、まさに一世一代の賭けでした。

紡績工場を設計したのは西川秋次<sup>あきじ</sup>です。西川は佐吉が帰国後も1年半にわたり米国に残り、佐吉の織機の特許申請と紡績技術の研究のために精力的に取り組んでおり、その成果が発揮されたのです。

また、佐吉の意気に感じて、資金協力するなど事業化に協力したのが藤野亀之助です。藤野とともに三井物産名古屋支店長の兄玉一造も、佐吉の事業経営に協力。資金協力や3年延払いなどの便宜を図り、佐吉を全面的に支援しました。兄玉は後に三井物産棉花部から独立を果たし東洋棉花(現・豊田通商)を立ち上げた実質的な創始者であり、物心両面から佐吉の事業経営に協力しました。

そしてこの頃、三井銀行名古屋支店長の矢田績<sup>せき</sup>の紹介で村野時哉<sup>ときや</sup>が財務担当に就任し、財務体制の基盤づくりに努めます。以来、村野は佐吉が発明に専念できるよう、長年にわたり財務管理に尽力しました。

一方、資金協力が縁で、佐吉と兄玉一造の関係はますます密接になり、1915(大正4)年10月、兄玉一造は、弟・利三郎<sup>りざぶろう</sup>を佐吉の娘・愛子に紹介し、入婿させます。利三郎は1912(明治45)年4月伊藤忠に入社後、フィリピン・マニラ支店の初代支配人を務めていましたが、それ以降、豊田家の人として活躍することになります。1917(大正6)年には豊田織布工場を西区北押切町に移し、豊田織布押切工場に改称、長弟・平吉が経営にあたります。

第一次世界大戦の特需もあり、業績は順調に拡大しこの機を捉えて工場を拡充、もはや個人経営では円滑な運営ができなくなっていました。そこで、1918(大正7)年1月、豊田自動紡織工場を改組し、資本金500万円で豊田紡織株式会社を設立。大変親しい関係であった藤野は、佐吉の4万8千株に次ぐ2万9千株を保有し個人的に支援します。佐吉が社長に就任し、豊田利三郎が常務に就任、実質的な経営責任者になりました。同年3月には菊井紡織株式会社も設立し、次弟・佐助が専務となり、経営にあたることになりました。



岡部 岩太郎



兄玉 一造



村野 時哉



豊田 利三郎

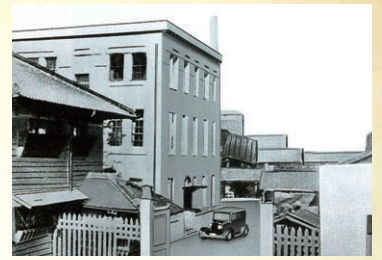




豊田平吉



1914年発売のN式織機(当館展示品)



1918年設立の豊田紡織(株)

## 初の海外事業として中国・上海に進出



西川 秋次

佐吉には高峰博士から教わった民間外交を中国で実践したいという思いがありました。そこで1918(大正7)年、豊田紡織(株)の会社経営が軌道に乗ると、その経営を利三郎に任せ、佐吉は日中親善と自動織機・環状織機完成のための資金調達を目的に、上海を視察に訪れました。翌1919(大正8)年10月、西川秋次を伴い、半永住の決意で再び上海に渡り、自ら発明した織機で紡織業を興すための準備に取りかかります。しかし、初の海外事業への挑戦に周囲からは反対の声も多く、しかも当時の上海では日貨排斥運動の真っ只中にあり、工場用地の買収は難航を極めます。

### 「障子を開けてみよ、外は広い」

佐吉が上海進出に反対する親族に語った言葉です。そして、上海に渡り1年後、用地を買収し工場を建設。1921(大正10)年11月、(株)豊田<sup>ほうしよくしやう</sup>紡織廠を設立。西川は常務に就任し、実質的な経営者として豊田紡織廠の経営を任されます。以来、西川は人生を賭して中国での事業を発展させていき、佐吉の織機開発に、喜一郎の自動車事業に資金面で大いに貢献をしました。

そしてこの後、佐吉が生涯をかけて発明に取り組んできた「完全なる自動織機」の完成がいよいよ近づきますが、思いもよらないことが起きます。豊田式織機(株)との特許係争の問題がここへきて浮上したのです。



1921年設立の(株)豊田紡織廠

(第77号 第3回「完成の頂」編へつづく)



上海の佐吉邸



## 佐吉ゆかりの 記念館紹介

# 上海豊田紡織廠記念館のご案内

佐吉が、1919～27年の間、上海をベースに発明に尽力したことは、あまり知られていません。当時、豊田紡織(株)名古屋の3.6倍もの生産規模を誇った(株)豊田紡織廠は、1921年に上海で設立されたトヨタグループ初の海外拠点です。この工場は、日中親善の精神のもと、1945年まで稼働し、トヨタグループ発展の一翼を担いました。2008年8月トヨタグループの原点のひとつに光を当てるべく、工場内にあった事務所棟と食堂棟を復元し、展示施設として、生まれ変わらせました。

日中親善にかけた佐吉の理想、それを継いだ西川秋次の思いを春日井館長の解説とともに、展示施設を周ることができます。上海にお越しの際は、トヨタグループのもうひとつの発展史をたどる「旅」をお楽しみください。



事前  
予約制

住 所 上海市長寧区万航渡路2318号「上海豊田紡織廠記念館」

予約電話 国番号86-21-5273-1919

予約メールアドレス kasugai@toyota-boshoku.com

所要時間 約1時間半から2時間

入館料 無料

開館時間 8:30～17:30

休館日 土・日曜日、中国の祝日(予約時にご確認下さい)



1階展示室

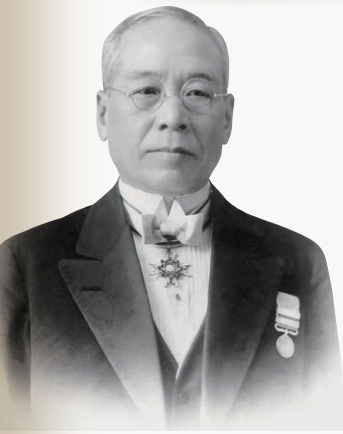


2階展示室(糸繰返機、常設写真展、木製人力織機)



食堂棟(手前)と事務所棟(奥)





事業面を支える



石川藤八

糸繰返機、汽力織機の優秀性を世に知らしめ事業を支える



村野時哉

紡織事業の財務を支える



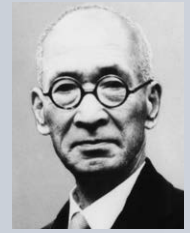
藤野亀之助

汽力織機で佐吉を世に知らしめ、終生事業を支える



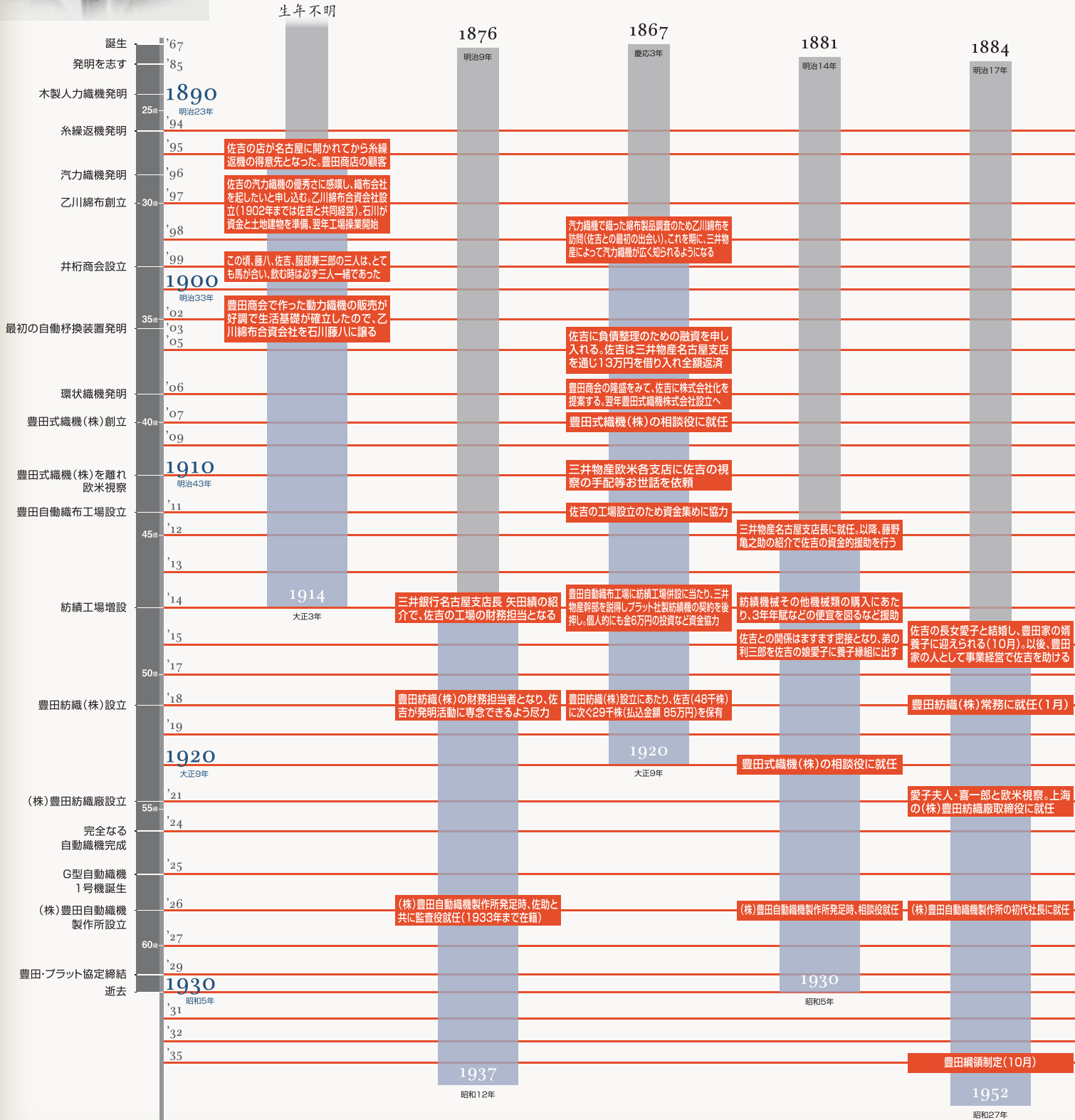
児玉一造

事業全般を物心両面で支える



豊田利三郎

紡織事業の経営全般を支える







豊田佐助

評価試験・研究資金で  
織機の完成を支える



豐田平吉

糸繰返機の販売、工場建設・経営で  
紡織の完成を支える



西川秋次

紡績事業の技術面と  
上海の紡織事業で経営を支える



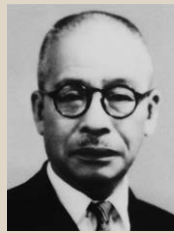
鈴木利藏

織機技術で  
発明・考案活動を支える



岡部 岩太郎

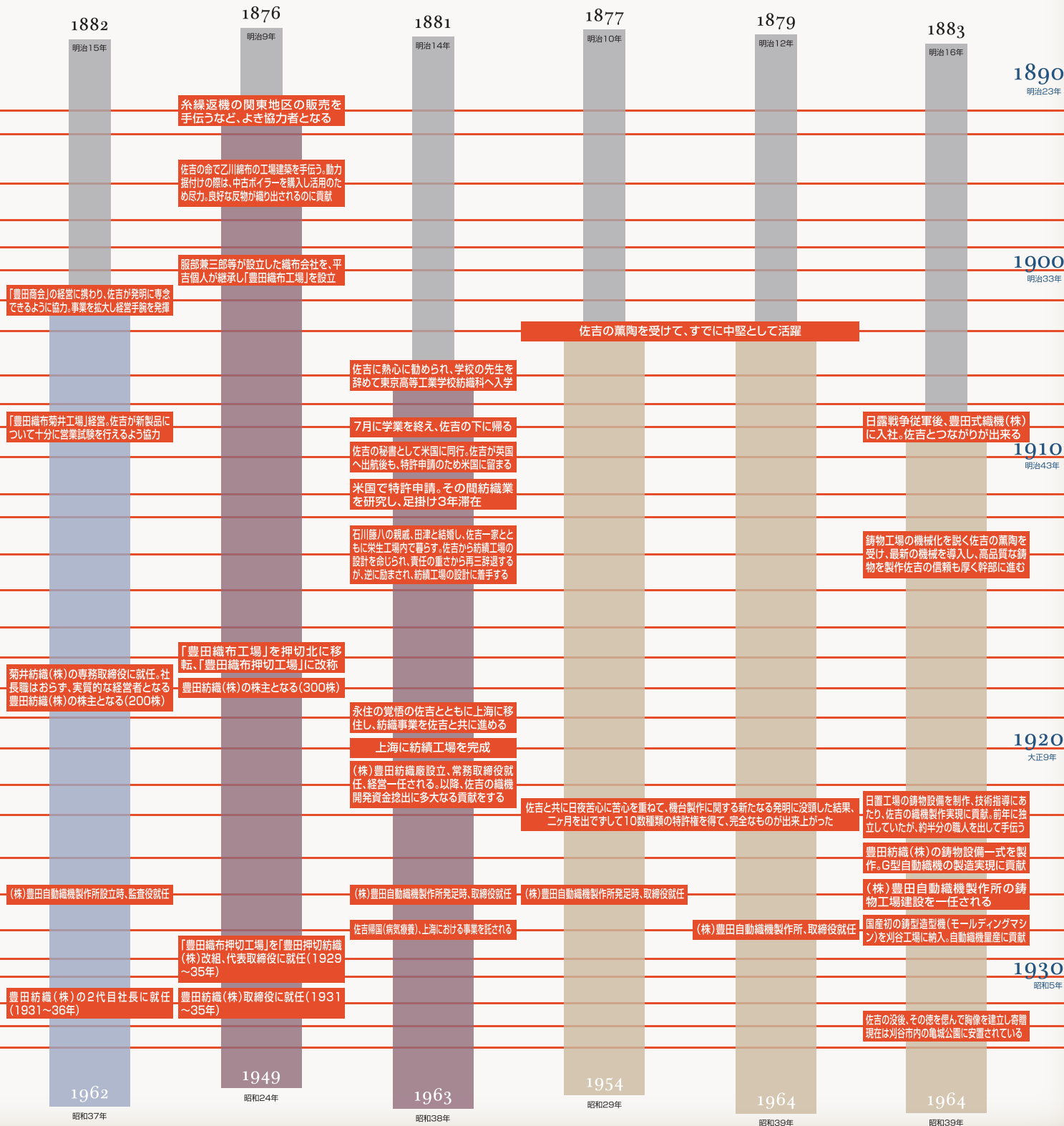
紡織技術の中核として  
発明・考案の製品化を支える



久保田長太郎

鑄物技術でG型自動織機の  
製品化を支える

## 技術面を支える





# トヨタ実験安全車(ESV)開発物語

## Story 「安全なクルマづくりの先駆け」



当館展示車両

日本では1960年代後半に本格的なモータリゼーションが到来し、自動車が急速に普及した結果、交通事故が急増し、1970年には交通事故死亡者数が1万人を突破しました。同じ頃、当時世界最大の自動車大国・アメリカでも、自動車事故者数の増加が社会問題となっており、自動車の安全に関する法案が日米で相次いで施行されました。そこで、1970年にアメリカ政府は、世界の自動車メーカーに「実験安全車(ESV: Experimental Safety Vehicle)」の開発を提唱し、日本政府もそれに参加する形で、71年に日本独自のESV開発を決定しました。

車体重量目標をアメリカが4,000ポンド(約1,800kg)に設定したのに対して日本のESVは、2,000ポンド(約900kg)としました。そして、「危険回避」と「乗員保護」のための安全性の追求、技術の向上を目標とし、時速80キロで衝突あるいは追突されても生存空間を確保しつつ乗員に加わるショックを生存可能な範囲内に柔らげ、乗員が車外に放出されないクルマの開発をめざしました。

政府の呼びかけに対して、トヨタがデンソー、アイシン精機などの協力を得て回答したのが、1973年このトヨタESVです。トヨタはこの重量制限の中で、仕様に定められた高度な安全基準を満たすために2人乗りのESVを開発。予防安全として、視認性向上のため走行状態に合わせた4種の配光パターンを設定したヘッドランプ、4輪ABSなどを採用するとともに、衝突安全としてエアバッグ、衝撃吸収バンパー、衝撃吸収ボデー、自動装着式シートベルトなどを採用しました。

このESVの思想と安全技術を量産車に反映させたのが当時、対米輸出の主流となっていた5代目コロナ(1973年8月発売)です。安全走行に関する機能の異常を検知して運転者に警告を与える「OKモニター」、日本初の衝撃吸収バンパー(オプション)、エネルギー吸収ステアリングコラム、樹脂製大型一体成型のインストルメントパネルなどを採用したことが特徴でした。

トヨタESVで開発された安全技術は、その後のトヨタの安全なクルマづくりに活かされ続けています。



ESVクラッシュテスト



5代目コロナ(当館展示車両)



5代目コロナに採用されたOKモニター



お客様と最初に接するから、その第一印象は、とても大切なもの。  
今回は、「受付ソフィア」からのレポートです。

受付では、来館されたお客様を最初にお迎えし、入場券の販売や各種お問い合わせ、来客の取り次ぎ、団体のお客様の受入業務を主に行っています。

私たちの業務は、毎朝の朝礼での年間3500組近い(2016年実績)団体様のチェックから始まります。ここ数年で海外からのお客様も大幅に増え、それに伴い、当館以外の観光施設について、見どころや見学時間、行き方など、英語でのお問い合わせも多くなりました。

上手くお伝え出来ないこともありましたが、スタッフ全員で英語の勉強会を行い、よりご理解いただける様、英語の地図や資料を作成し、その後のご予約に合わせて見どころや行き方のご案内をすると非常に喜んで頂けるようになりました。来館される様々なお客様にご満足頂ける様、日々心を込めた対応に努めています。



## チョット ひと 工夫

vol. 2

### 当館カフェでご提供するさまざまなカレー

様々な国の方が訪れる当館では各種宗教に配慮したお食事メニューを取り揃えております。



ハラル対応カレー ¥800

様々なスパイスの香りが漂う本格的なカレーです。イスラム教の方はもちろんですが、チキンカレーとしても人気の商品です。



ベジタブルカレー ¥700

使用している食材は全て植物性由来の物を使用。ベジタリアンの方にも安心してお召し上がり頂けます。ルーにアーモンドを加え、香ばしさとコクを出しました。



プレミアムカレー ¥820

ミュージアムカフェで人気の本格欧風ビーフカレー。スパイスの効いたシャープな辛さが特徴の辛口ビーフカレーです。こちらは当館ミュージアムショップでも「赤煉瓦ビーフカレー」として販売中です。ご来館のお土産として、お一つ、いかがでしょうか？

## 復刻

## かわら版 vol. 2

### 「西川秋次の思い出」

「アメリカ生活の二ケ年」より P.14~15

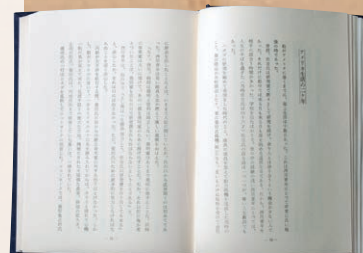
船がアメリカに着くまでに、海上生活は十数日あった。これは西川青年にとって非常に良い勉強の時であった。

.....(中略).....

『なア、西川。結局は発明と営利は両立しない。発明家はあくまで発明に徹することだ。同時に事業家は大いに儲けて、その一部を発明家のために投げ出すことだ。だが、それ以前に俺が考えついたことは、発明家も自らの力で研究費を作らねばならないということである』と。

西川青年は、胸の中で『よし僕は一生懸命努力して、佐吉氏の研究費を作り出してみせる』と、決心したが、それは口には出さなかった。ただ、豊田氏のために献身的に努力しなければならぬことを固く決心した。

**解説** 1910年欧米視察に唯一同行した当時29歳の西川は、普段、研究室で黙々と研究し続ける佐吉と、船中、話し合う時間が多かった。これは、西川にとって、かけがえのないものとなり、その後の人生を決定づけた。







# バリバリ ウイークイベント

入場料  
無料

当館所蔵の貴重な2台が走行します！

## 走行披露

トヨタAA型乗用車  
トヨタG1型トラック

①10:00 ②11:50 ③14:00 場所 南入口

【展示】9:30~17:00

※雨天の場合は中止。詳細はHPをご確認下さい。  
※スタッフによる車両解説があります。

懐かしの名車に乗れるチャンス！

## 同乗試乗会

初代クラウン  
初代カローラ  
初代セリカ

【試乗会】①10:20~11:50 ②14:20~15:50 場所 南入口

【整理券配布】①9:30~ ②12:50~

※雨天の場合も配布します。※各回なくなり次第終了

【定員】①クラウン 20組、セリカ 20組

②クラウン 20組、カローラ 20組

※1組4名まで乗車可。お子様は身長110cm以上。  
※車両は変更になる場合があります。

雨天の場合は中止。但し、館内特設会場にて記念撮影を行います。(整理券のご提示で乗車できます)  
詳細はHPをご確認下さい。

【展示】9:30~17:00



トヨタAA型乗用車



トヨタG1型トラック



初代クラウン



初代セリカ



初代カローラ

**たんけん！  
スタンプラリー**

ラリーシートが  
ペーパークラフトに  
なってるよ！  
ゴールでつくって  
みよう！

【受付時間】9:30~16:00  
スタート エントランスロビー  
ゴール 大ホール

**手織り体験！  
タペストリーづくり**

①9:40~11:40 ②13:00~15:00  
【整理券配布】①9:30~ ②12:50~  
※各回なくなり次第終了  
【定員】各回32人  
参加費 500円  
場所 エントランスロビー

布はどうやって  
織るのかな？実際に  
体験してオリジナルの  
タペストリーを  
つくろう★



# Topics

3/19(日)

第4回さんぎ大学を開催

今回は、豊田佐吉生誕150周年特別企画に関連する講話会を開催しました。

「佐吉がめざした理想の織機『環状織機展』の開催～10年に一度のたて糸交換の実施～」、「豊田佐吉の生涯と、彼を支えた人々」についてを当館副館長の加古、成田より紹介し、100人近くのお客様にご参加いただきました。

次回のさんぎ大学も、ご期待ください。





2017  
6/10(土)・11(日)

2017年6月11日に  
開館23周年を迎えるトヨタ産業技術記念館では、  
皆様への感謝の気持ちを込めて特別イベントを開催!  
ぜひ、ご家族そろってお越しください!

※当日は駐車場が大変混雑いたします。できるだけ公共交通機関を  
ご利用ください。



**からくり  
実演**  
文字書き人形

① 11:20 ② 13:30  
③ 14:50 ④ 15:50 予定 1回20分程度

**場所** ホールA

※実演のからくりは近年の作品です。  
状況により作品が変更になることがあります。

特別ガイドツアー  
産業遺産を巡る

10日(土) 15:00~

11日(日) 11:00~、15:00~

館長がご案内  
します!

豊田佐吉生誕150周年特別企画第二弾

特別展「研究と創造の生涯～佐吉の志と、それを支えた人々～」

開催期間 2月11日(土)～6月11日(日)まで延長

研究と創造に生涯を捧げた豊田佐吉。その波乱に満ちた  
人生と、彼を支えた仲間たちに焦点をあて、トヨタグループ  
の源流をたどる特別展。お陰様で、好評につき、開催期間  
を、6月11日まで延長しました。  
この機会を、ぜひ、お見逃しなく。



図書室「絵本をつくろう!」イベント開催

開催期間 8月5日(土)・6日(日)

参加費無料

図書室では、夏休み期間中の8月5日(土)、6日(日)に「絵本をつく  
ろう!」イベントを特別開催します。雑誌を切り抜いたり、布や毛糸を  
貼ったりして、自分だけの絵本づくりにチャレンジしましょう!

先着 100人/日/どなたでも参加いただけます



夏休み 発見☆体験ミュージアム

開催期間 8月19日(土)・20日(日)

夏休み  
期間中 7月21日(金)～8月31日(木)は  
小学生入場無料

トヨタ産業技術記念館のできごと

4/11(火)～23(日)

発明の日記念イベント ひらめき☆発明フェスタを開催

4月18日の「発明の日」にちなみ、特許庁、中部経済産業局、愛知県発明協会との共催  
で日本の十大発明家と戦後日本のイノベーショントップ10などのパネル展示を行いました。

22日(土)23日(日)は発見☆体験ミュージアムとして工作イベントを開催し、23日(日)  
には愛知工業大学の中野先生によるサイエンスショーも開催。また、大人向けイベントと  
してJR東海リニア・鉄道館天野館長と当館副館長加古の講演会を開催しました。

連日たくさんの人で賑わいました。





4/1(土)・2(日)

## 「春休み 発見☆体験ミュージアム」を開催

小中学生を対象にした春の恒例イベント「春休み 発見☆体験ミュージアム」を4月1日(土)、2日(日)の2日間にわたり大ホールで開催しました。

当館でできたスライバーを使った「糸紡ぎ」、空き箱を使って本格的に綿糸で織る「ブックマーカー」、高速回転で磁石を動かして電気が発生するしくみを学ぶ「ぶんぶんゴマ」の3プログラムを体験していただきました。

一緒に作る中でお父さん、お母さんから作り方のコツや発電のしくみを教えてもらうなど会場内は連日たくさんの親子で賑わいました。



2/12(日)

## 入館者累計500万人達成

1994年6月11日の開館以来、入館者数が500万人となりました。500万人目となったご家族には、当館専務理事の加藤武彦より認定書、館長の飯島修より花束と記念品が贈られました。



2/23(木)

## 防災訓練

震度6強の大地震発生を前提とした避難訓練を行いました。今回の訓練では、繊維機械館から一時避難場所である南ロータリーへ誘導し、その場で外国人に対する多言語による状況説明(英語、中国語、韓国語)を想定した訓練を行いました。



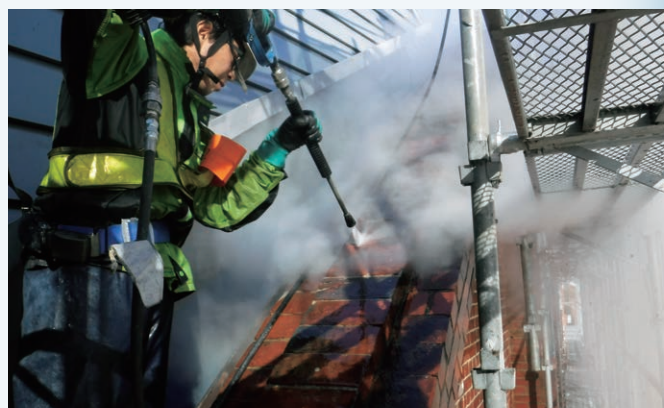


1/9(祝)~2/27(月)

## 赤れんが保存工事

当館の産業遺産である赤れんがの劣化を防ぐために、保存工事を行いました。文化財の意匠性を損なうことなく、自然な風合いで長期的な撥水性を付与する特殊な工法で行いました。

100年前の赤れんがを、次の100年に繋げるために、コツコツ努力していきます。



4/14(金)

## La Festa Primavera 2017

クラシックカーの魅力を伝え、歴代の名車が次世代へ継承されることを願い、当イベントは68台の参加を得て、今年も熱田神宮からスタート。2か所目のスタンプポイントとなった当館には名車を操る近藤真彦さんや堺正章さんも運転手として参加。名古屋おもてなし武将隊の前田慶次さんも駆けつけ、大変盛り上がりしました。





# INFORMATION

都合により、変更させていただく場合がございます。詳しくはトヨタ産業技術記念館までお問い合わせ下さい。

夏休み  
期間中

7月21日(金)～8月31日(木)は  
**小学生入場無料**

## 週末 Workshop ワークショップ

次世代を担う子どもたちが「モノづくり」に興味を持ち、豊かな創造性を育むきっかけとなる各種プログラムを用意しています。ぜひご参加ください。

他、多数プログラムを開催

受付  
期間

7月開催分

6/1(木)～6/13(火)

8月開催分

7/1(土)～7/12(水)

参加申し込みはホームページから

トヨタ産業技術記念館

検索

参加費

500円(入場料別途必要)

問い合わせ

052-551-6003

参加希望者が定員を上回る場合、抽選となります。詳細はホームページをご覧ください。



7/2日

アンティーク  
子ども椅子づくり



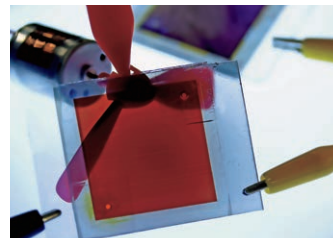
7/15日

光魔法?  
科学トリック工作



7/22日

キラキラ★ぶるぶる  
石けんをつくろう



8/6日

はかせとあそぼ!  
花から太陽電池をつくろう!

## フォロワー募集中 Follow us on



おもしろ情報配信中! お手持ちの携帯・パソコンから



いいね!

宜しくお願いします!!

「赤れんが便り」読者アンケートにご協力ください!

当館では、より魅力的な「赤れんが便り」を目指し、読者アンケートを実施いたします。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名様に「PILOT製オリジナルシャープペン」をプレゼントいたします。

● アンケートは、パソコン、スマートフォンからご回答ください。

<https://www.tcmi.org/form/161001survey/>



レトロでシックな赤れんがの空間で、シェフが腕を振るったメニューをお楽しみいただけます。



佐吉の放魂  
滋養の食材で仕上げた  
「SAKICHIランチ」  
¥1,500



季節のパフェ  
(※内容は時期によって異なります)

ティータイム  
限定メニュー  
(14:00以降)

SAKICHIランチ 大好評発売中

14時からのティータイム限定メニューも大好評!

【営業時間】11:00～17:00(16:30ラストオーダー)【TEL】052-551-6243

※価格はすべて税込です。※館内ホールご利用時の団体様用お弁当も承ります。

※17:00以降貸切パーティも可能です。立食・着席・フリードリンクなど、ご要望に応じます。



無停止付換式  
織田自動織機(G型)



トヨダスタンダードセダン  
AA型乗用車

トヨタ産業技術記念館 <http://www.tcmi.org/>  
モバイルサイト<http://m.tcmi.org/>はこちら

〒451-0051 名古屋市西区則武新町4丁目1番35号 TEL052-551-6115 FAX052-551-6199



### ご案内

- 開館時間/9:30～17:00(入場受付は16:30まで)
- 休館日/月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 ※但し、8/14(月)は開館
- 入場料/大人500円・中高生300円・小学生200円
- ※30名以上の団体は2割引
- ※学校行事での入場は半額(小学生・引率の先生は無料)
- ※65歳以上の方は無料(証明できるものをご提示下さい)
- ※障がい者手帳をお持ちのご本人および付添の方1名は無料

### 交通

- 名鉄「栄生駅」下車、徒歩3分
- 地下鉄「亀島駅」下車、徒歩10分
- 市バス/名古屋駅バスターミナル5番のりば  
「名古屋駅行(循環)」「トヨタ産業技術記念館」下車、徒歩3分
- なごや観光ルートバス「メーグル」/  
名古屋駅バスターミナル11番のりば  
「トヨタ産業技術記念館(敷地内)」下車すぐ
- 無料駐車場:乗用車210台、大型バス10台

メルマガ・Facebookにて情報配信中!

